

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

おはようございます。7番の濱野でございます。質問の通告書のとおり2点についてご質問させていただきたいなというふうに思っております。久しぶりの一般質問でございますので、緊張しておりますけれども、丁寧に質問させていただきたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

まず1点目でございますけれども、令和3年度予算におきまして、水道事業の出資金の根拠と今後の水道事業に対する町としての対応をお聞きしたいというふうに思います。

香川県内の水道行政を統一し、効率化して安定して水道経営が継続できるよう、平成30年から香川県広域水道企業団として運営が始まりました。しかし格差のある行政施策を統一するためには、10年間をかけて平準化し、それまでは区分経理で旧行政ごとの水道会計で事業を進めていくことになっております。

この10年間で、業務運営では、財務システム・設計積算、工事検査等業務等・入札、契約制度・人事給与システム・維持修繕業務・水道料金の統一等が行われ、施設整備では、事業基盤を強化した、円滑な水融通を行うため、更新基準に基づき、施設の重要度や優先度、事業の平準化等を考慮した更新事業計画を策定し、それに基づいて計画的に整備をするようになっております。その他財政運営や組織職員等も統一した基準を設けて、それを達成することとなっております。難しい話でございますけれども、香川県内の水道を統一するということで、そのためには10年間かけて、県内の市町がいろんな水道行政を行ってやってきたところを、基準を設けて平準化していくというふうなことでございます。

そこで、今年度予算の水道事業・香川県広域水道企業団土庄事務所出資金の積算根拠を教えてくださいと思います。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

濱野議員のご質問にお答えいたします。

平成29年11月、直島町を除く香川県と県内16市町の水道事業を統合した香川県広域水道企業団が発足し、平成30年4月から事業を開始し、3年が経過しました。

水道事業を統合する際に、各市町の水道事業の水道施設の整備状況や財政状況に大きな格差があったことから、統合後10年間は水道料金を統一せず、市町水道事業ごとの区分経理を実施し、この移行期間で整備の格差を是正することとなっております。区分経理終了後の令和10年度からは水道企業団内の水道

料金が統一される予定です。

ご質問の今年度予算の出資金の積算根拠でございますが、令和 2 年度に施設の更新計画の見直し、財政シミュレーションを修正した結果、土庄事業体では、水道企業団で定められている財政目標を守るために、相当の不足額が生じていると報告を受けています。不足額につきましては、水道料金の改定および町からの繰出金で補うことで現在、水道企業団と協議中です。そのうち、出資金については、今年度は土庄事業体が実施、負担する事業のうち、国の交付金事業の交付金額を上限として繰り出していく予定です。この出資金の財源について、地方交付税措置を受けることができる起債を利用することで、実質負担を軽減することができます。来年度以降についても、基本的に今年度同様、地方交付税措置を適用できる起債制度を利用して繰り出していく予定ですが、今後、水道企業団と、料金改定と合わせて協議を継続していきます。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7 番 濱野良一君。

○7 番（濱野良一君）

ただいまご返答がございました、水道企業団と現在も調整中ということでございます。現在も事業が完了しておりません、土庄町民の 7 割ぐらいの人口をカバーしている肥土山浄水場の施設、新設・改修の状況はどうなっているのか把握しておるのでしょうか。また、令和 9 年度に向けて完成までの計画等は把握しているのか。併せて、その他石綿管の取り換えや、古くなった施設等の修繕・改修などの多くの事業を行う必要があると思いますけれども、こちらのほうも把握されているのでしょうか。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

肥土山浄水場の完成までの計画等は把握しているのか、についてのご質問ですが、肥土山浄水場につきましては、配水エリアが肥土山・土庄・湊崎・四海の一部と土庄町の約 7 割強人口を賄っているのはもとより土庄町の産業経済を網羅する基幹浄水場であります。近年、老朽化が著しく、安心安全な水を提供していくには、できるだけ早急に更新事業を実施する必要がある状況であり、水道企業団で計画や設計の精査を実施し、現在、工事発注に向けて設計中と聞いております。また工事については区分経理中での完成を予定しているとのことです。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7 番 濱野良一君。

○7 番（濱野良一君）

肥土山浄水場に関連してでございますけれども、北山浄水場の長寿命化事業を行うというふうにも聞いております。

その事業でございますけれども、当初予定しておりました肥土山浄水場の規模を勘案しますと将来的な人口推移を考慮して、過大な施設になるというふうなことで、規模を縮小した改修計画になったというふうに聞いております。その結果、事業予算等は減額はされておるんですけども、その間、つなぐためにも北山浄水場を必要とするということでございます。この事業を鑑みますと、水道企業団としての事業というふうには考えられると思うんですけども、ただ、北山浄水場に関しましては、本来、水道企業団のほうには入っておりませんし、土庄町の財産ということでございますので、そのあたりの事業に関しましては、土庄町の事業主体はどちらになるのか。また、工事資金の負担等々はどういうふうになるのかということ、把握されていますでしょうか。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

北山浄水場についてのご質問ですが、当初計画では、北山浄水場は肥土山浄水場更新時に廃止する予定でしたが、肥土山浄水場の更新事業を見直す中で、将来的な人口予想のもと、適正な水道施設となるよう再調査した結果としまして、肥土山浄水場の事業規模等を縮小し、廃止する予定であった北山浄水場を延命化し、稼働させるほうが、事業費、将来の水道施設規模からみても、効率的であるとのことで延命することになり、水道企業団が事業主体となって、肥土山浄水場更新と並行して実施する予定と聞いております。

町からの負担金につきましては、この事業に、というのではなく、先ほど申し上げました財政シミュレーションで生じる不足額を補うための水道料金の改定、町からの繰出金として発生することとなります。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

まだまだ先の長い話ではございますけれども、水に関しましては、過去に小豆島、非常に水不足で断水等々があった記憶がございます。今、いろんな施策を講じていただいたおかげで、そういうことはなくなっておりますし、香川県内でも断水等々は起こらない地域になってきておるとは思いますが、如何せん離島でございます。水の確保は非常に大切なことだというふうに思います。そのためにも広域になるということは非常に我々にとっては喜ばしい、また必要不可欠なことではないかなというふうに思っております。水道企業団といたしましては、今後事業を行っていく上で、現在の水道料金収入だけでは適正な

水道経営ができず、広域化への実現を考えますと、水道料金の値上げを考慮しながら、事業を進めていくというふうに聞いております。このことについて町としてはどのように考えているでしょうか。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

水道料金の値上げと町の負担金についてのご質問でございますが、土庄事業体の企業団発足前の財政シュミレーションでは水道料金の改定、町からの繰出金については、必要ない予測でしたが、その当時、本部経費や更新事業費の増加等により水道料金の改定や町からの繰出金が必要となる可能性があることは議会にも報告させていただいておりました。先ほど申し上げましたとおり、企業団設立時の協定書におきまして、一定の施設整備、財政目標を定め、各事業体の均衡を図ることを目的としていることから、施設整備を進めながら財政目標を守るために水道料金の値上げ及び町からの繰出金については、やむなしと考えております。なお水道料金の改定につきましては、現在のところ協議中であります。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

この水道広域化につきましては、過去に報道にもありましたように、土庄町放っておきますと数年、数十年後には今の現在の3500円ぐらいの基本料金が1万5千円ぐらいになるかもしれないというふうな試算が出たというふうに記憶をいたしております。これは広域化になることによって、それが平準化されて県内どこでも同じ統一料金ということで非常に嬉しいし、ありがたいことだというふうに思いますが、現在の土庄町の状況を考えますと、水道課がなくなりまして、水道企業団とのつながりというか、情報がなかなか共有できないというふうなことも考えられます。我々もしっかりと水道企業団のほうに聞くことを怠らずに、町民に対してしっかりと情報発信ができるようにしなければいけないなというふうに思っておりますけれども、統合化するまではどうしても町としての対応もとっていただかなければいけないというふうに思っております。このままだと水道のことは何も分からない町になってしまうというのではなくて、しっかりと連携を取っていただき、情報共有をしていただいて、今後とも水道広域化に向けてしっかりとやっていただきたいなというふうに思いますし、この件に関しましては町の大切な事業でございますので、今後とも私としても捉えていきたいなというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。

続きまして、令和 4 年度運航予定の、香川県ドクターヘリへの土庄町の取り組みをお聞きしたいというふうに思います。

来年度、香川県が導入しようとしている、ドクターヘリの運航と要請の際の具体的な規則や基準等はどうなっているのでしょうか。

現在細かなことを決めるため、香川県ドクターヘリ運航調整委員会を行っているというふうに聞いております。小豆消防消防長と小豆島中央病院院長もその委員として活動されております。消防長にお聞きいたしますと、要請は消防より行うこととなっており、消防署員または救急隊が現地で傷病者の観察を行い、必要と判断できればそのまま要請ができるが、豊島においてはその人材がおりません。しかし、119 番の救急の電話対応でその様子を聞き、要請が必要と判断されれば要請ができるとのことであります。その際の対応は、現在のところ消防団に委ねるところが基本と考えられますが、ヘリの離着陸のための水まきと誘導等の地上支援が必要となる。また、砂埃が立たないように水をまくことは非常に負担になり、緊急を要する場面で傷病者の搬送もしなければならぬ中、水まきと誘導等の地上支援も行うことは、時間的にも人力的にもかなり難しいと思われまます。

正式に決まっているわけではありませんけれども、おそらく要請から 5 分ほどで離陸し、10 分ほどの飛行で豊島上空に到達すると思われております。これでは地上の着陸準備を終えることは非常に困難で、上空で待機をするか準備ができてから離陸をするかというふうになるのではないのでしょうか。

これを機に、豊島にヘリポート、もしくはそれに準じる施設の整備を提言したいと思いますけれども、町としてはどのように考えておられるのでしょうか。

○議長（高橋正博君）

総務課長 笹山恵子君。

○総務課長（笹山恵子君）

濱野議員のご質問にお答えいたします。

来年度導入されるドクターヘリの運用等につきましては、議員もおっしゃるとおり、香川県ドクターヘリ運航等調整委員会で協議がなされているものでございます。

この委員会には 3 つのワーキンググループがあり、ドクターヘリの要請基準は、運行要領等検討ワーキンググループで検討されており、現在、素案の段階で運行要領の決定に向け検討中であると伺っております。

また、ドクターヘリの離着陸場につきましては、委員会において候補地の調査中であり離着陸可能な場所と認められれば、今後地権者に利用協議がなされると伺っております。

候補地としましては、土庄東港のように専用の場外離着陸場として整備した

場所だけでなく、グラウンド、港湾施設、漁港施設、空き地等、公有施設を中心に選定されていると伺っているものでございます。

豊島地区での離着陸場所につきましては、土庄町地域防災計画におきまして、香川県防災ヘリコプター用飛行場外離着陸場として指定している旧豊島中学校運動場が、ドクターヘリの離着陸についても望ましい場所であると考えられます。

また、旧豊島中学校運動場は、現在学校用地と利用されていますが、必要時には消防団員に散水、周囲の安全確保等をお願いする運用となっております。

いずれにいたしましても有人離島を抱える当町にとって、ドクターヘリの運行は離島地域の格差解消に大きく資するものと考えております。現時点については、豊島地区についての、ドクターヘリ離着陸場の利用協議は始まっておりませんが、豊島においての場外離着陸場の整備については、今後、町としても検討すべきものと考えております。

場外離着陸場の整備には、公道との接続、ヘリコプターの離着陸のための諸条件を勘案し、専用の用地を確保する必要があることもございます。先進地の事例も研究しながら、当町の現状を十分お伝えすることによって、今後、小豆地区消防本部と連携しながら、検討してまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

ありがとうございます。併せてですけれども、土庄町におきましては、有人島といたしまして、小豊島もでございます。ここに関しましても考える必要があるのではないかなというふうに思います。

小豊島でも何かあった際、ドクターヘリは非常に有用であるというふうに思いますし、また防災の観点からも緊急時や非常時に施設があれば大きな安心となると思います。これは豊島も併せてですけれども、すぐに費用対効果とかいうふうなことがありますけれども、町の考え方としては、島民、町民がしっかりと安心安全で暮らせるためには費用対効果うんぬん抜きにして守っていくための必要最大限の施策を施す必要があるというふうに考えております。小豊島に関しましてもどのように考えておりますでしょうか。

○議長（高橋正博君）

総務課長 笹山恵子君。

○総務課長（笹山恵子君）

濱野議員の再質問にお答えいたします。小豊島につきましても濱野議員おっしゃるとおり有人離島でございます。それにつきましては、先ほど豊島のほう

につきましては、場外の離発着場ということで、現時点では旧の豊島中学校の跡地を指定しておりますが、現時点では小豊島のほうでは想定されていないところでございます。今後、小豊島の条件につきましても消防等にお伝えしながら今後の方針について検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

防災の観点からも非常に大切な施策になるのではないかなというふうに思います。ただ消防の関係がございまして、これは広域行政の部分も関わってくるかなというふうに思いますし、例えば大部地区、小部地区におきましても何かあったときにそういう場所が整備されていれば非常に有効でございますし、小豆郡として小豆島町も含めた計画的な整備も必要になるかなというふうには考えられます。その上で、もう一度町長にもお伺いしたいのですけれども、この案件に関しまして土庄町としてやはり積極的に情報発信、情報収集をしていく必要があると思われましても、町長のお考えはいかがでしょうか。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

先ほどから笹山課長が申しましたとおりですね、まずは消防本部の皆さんとの協議、一緒になって考えていくことは当然必要です。先ほど言われた豊島、また小豊島。豊島については豊島の中学校、仮ですけどもあそこ使えるという状況ですけども、あのあたりほんと使えるのかどうか、誘導灯がいますよね。そういうのが実際にどこまで必要なのかとか消防団、それから消防署、言いましたけど消防団との連携も必要です。小豊島についてはですね、そういう公有地、なければしょうがない、もう私有地かなと、港湾の港の近くとか、そういった空き地もちょっと見ながらですね、実際どういう状況で使えるかっていうのは検討する必要があると思っております。先ほど言われた大部とか灘山とか、あちらのつていう分もありますけども、当然福田とかですね、当浜とかたぶん全部小豆島全体の話になってくるのかなと思うので、そのあたりはまずは陸地なので、まずは豊島とか小豊島、そのあと同時並行かどうか分かりませんが、そちらのほうも整備っていうのも、これから少子高齢化の中でですね、また限界集落が出てきたら、本当なかな消防団員も確保できないっていう状況になってるので、そのあたりも含めてこれから検討する必要があると思います。なので小豆島全体でこれは考えていく必要の部分と土庄町においては豊島、小豊島、これは当然県のほう、それから国の離島活性化交付金とか

ですね、何かそういう利用できるものがあれば、そういう利用しながら前向きにやっていく必要があるのかなと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

離島が抱えている問題はどこも同じであるというふうに思います。香川県におきましても離島市町村会、また議長会もございます。ぜひ土庄町がリードをとって、同じ問題を持っている地域として国、県に訴えていっていただきたいなというふうに思います。私といたしましても、この件につきましてはまだまだやらなければいけないことがあろうというふうに思っておりますし、広域の場でもこの件については取り上げていただきたいなというふうに思っておりますので、活動を続けていきたいなというふうに思っております。以上で質問を終わります。